

風土記の丘の花だより¹¹⁹

今、そしてこれから見られる植物(2022年1月22日)

大池のカモの数が多くなってきました。多いのがカルガモとヒドリガモです。マガモがそれに次ぎます。去年見られたトモエガモはまだいませんが、今年はオカヨシガモがよく見られます。さて、風土記の丘の紹介すべき花はいよいよなくなりました。そこで今回は常緑針葉樹を紹介します。(もはや「花だより」ではない・・・)



アスナロです。「あしたはヒノキになろう、あすなろう」が語源と言われていますが、さて、どうでしょうか。ヒノキとは葉の形がずいぶん違います。この木は万葉植物園の東斜面に植えられています。現在、立ち入り禁止で、見るにはこの斜面を上るしかありませんね。幹を根元で切られているのか、上に伸びず、こんもりと繁っています。葉裏の白い部分の形がいわゆる涙型で特徴的です。(左が表、右が裏)



次が、アスナロが憧れたヒノキです。建築材としては極めて高級と言われていています。檜風呂など、名前はよく聞きますが、じっくり眺めることは少ないでしょう。葉の裏の白い部分は、よく「Yの字を並べているような」と表現されます。でも「Yを上下反対に2つくっつけたような」がより正確でしょうか。



次はヒノキによく似たサワラです。サワラはヒノキより少し材の質が劣るといわれています。そういえば私の生家にサワラで作った桶がありました。建築というより、日用品などに使ったのでしょうか。葉の裏の白い部分は「Xを並べたような」と言われますが、Xではなく、ひらがなの「く」を背中合わせにしたようにも見えますね。



最後はカヤです。昔から油を搾ったり、実を食用にしたり、また将棋盤などにも使われてきました。上の3つは触ってもチクチクしませんが、カヤはさすが針葉樹、痛いです。風土記の丘には針葉樹が案外多いですね、まだモミもツガも紹介できていません。とても地味ですが、枯れ葉や落ち葉よりはマシ？ 松下